

## 全島民で漂着ごみ回収する口永良部島の魅力を児童生徒が発信

### 文部科学大臣賞 鹿児島県 屋久島町立金岳小中学校

屋久島の北西 12 kmに位置する島、「口永良部島」。今も噴煙を上げる活火山を擁し、手つかずの自然が広がり、島全体が国立公園、ユネスコエコパークに認定されている。島民の環境に対する意識は高く、住宅地を歩いても、たばこや空き缶などポイ捨てごみは見当たらない。

しかし、島の北部にある西ノ浜海岸では状況が一変する。おびただしい数の漂着ごみが連なり、本来あるはずの砂浜がごみで覆い隠されている。この西ノ浜は、海流の影響や島の地形により、海外からのごみが漂着する場所として知られ、同校の児童生徒と全島民が協力してごみ回収に励む。その活動中にさまざまな疑問が生じたことがきっかけで、漂着ごみの実験を開始。プラごみを洗濯機に入れて、マイクロプラスチックになるまでの過程や劣化の様子を再現したり、ペットボトルのキャップ付きとキャップ無しで浮沈について研究したりと、仮説を立てながら、実験を繰り返し、課題解決を探る。

口永良部島には、島の希少な自然を研究するために、複数の大学が調査訪問することでも有名だ。児童生徒は、大学生とも交流を深め、専門的な知識を得ている。そうした恵まれた環境を生かし、屋久島型ESD教育の一環で、活動成果を積極的に発信。2022年に屋久島で開催された「世界遺産学習全国サミット」では、西ノ浜海岸の現状を始め、取り組んでいることを来場者に語り、反響を呼んだ。また、西ノ浜海岸の漂着ごみをクローズアップしたポスターも作成し、県内外に配布掲示、アピールに努めている。

現在、島の人口は100名ほどで、少子高齢化が加速。島の児童生徒だけでは、やりたい活動も制限されるが、山海留学生を受け入れている同校では、多様な取り組みに挑戦できる。同校PTA会長の貴船森<sup>きぶね</sup>さんは、「昔から学校と島民の距離が近く、『子は島の宝』と子どもたちを見守る島民の目はあたたかい。留学を終えた子どもが、大人になって戻ってくるのを楽しみに待つ島民も多い」と目を細める。

同校には、広い校庭はあるがプールがない。その代わりとなる海で子どもたちが泳いでいると、時にアオウミガメが寄り添う。そんな豊かな環境や島民の思いに抱かれて成長した子どもたちには、大好きな島の自然を継承しようという意志が育まれている。



#### 鹿児島県 屋久島町立金岳 (かながだけ) 小中学校

学校長：松永 裕幸 (まつなが ひろゆき)

児童生徒数：児童4名 生徒7名(2023年11月末現在)

住所：鹿児島県熊毛郡屋久島町口永良部 656 番地

電話：0997-49-2141

アクセス：口永良部島「本村港」から徒歩約10分

上：多くの漂着ごみが流れつく西ノ浜を全島民で清掃している様子、2左：回収したペットボトルを分類調査、2右：回収したプラスチックを洗濯機にかけてマイクロプラスチックになる過程を実証、3左：反響を呼んだ啓発ポスター、3右：漂着ごみで作った人目を引く看板、下：世界遺産学習全国サミットで学んだ成果を発表